

## 『腸内フローラと皮膚病——腸-脳-皮膚軸研究の進展』

段云峰, 金鋒

中国科学院心理研究所, 心理健康重点实验室, 北京 100101

2016-06-12 收稿, 2016-07-11 修回, 2016-07-12 接受

### 【要旨】

皮膚病、特に湿疹、皮膚炎、ニキビ等は、個人のイメージに影響するだけでなく、体調不良や精神異状を引き起こす可能性がある。皮膚病は多くの人に影響を与えており、病因は複雑で、再発率が高く、世界的に患者が急増している。皮膚病は心理疾患と密切に関係しており、しかも心理疾患の罹患率は著しく上昇している。近年の研究で腸の状態、腸内フローラおよび心理疾患と皮膚病との関係が明らかになり、腸-大脳-皮膚軸(腸-脳-皮膚軸)と呼ばれている。腸内フローラは皮膚病の発症に影響を及ぼし、さらに、精神と腸内フローラの健全性は皮膚の健全性に現われる。逆に、皮膚の状態は精神と腸内フローラの健全性を評価する指標となる。飲食は腸-脳-皮膚軸を通じて皮膚に影響を及ぼす重要な要素であり、心理的要素が皮膚の健康に与える影響も軽視できない。腸と皮膚の微生物、腸の状態、大脳、皮膚を個別に扱うのではなく、一つのシステムとして考え、その上で腸-脳-皮膚軸に関与していくことが、皮膚病の重要な治療法となる。将来的に皮膚病の治療は、飲食、善玉菌、プロバイオティクス、薬物および心の健康等を総合的に活用する方向へと向かうであろう。本論文では、人類の第二のゲノムとも呼ばれる人体微生物群や腸-大脳-皮膚軸と皮膚病との関係、ならびにその相互作用に関する研究の進展について重点的に紹介する。